

第42回 戦争を語り継ぐ女たちのつどい 講話資料 7/6版

□日時 令和8年（2026年）7月25日（土）10時～12時半頃
□会場 くまもと県民交流館 パレアホール
熊本市中央区手取本町8-9 TEL 096-355-4300

「“熊本初空襲” 柿原空襲とそれに続く健軍飛行場・
三菱熊本航空機製作所等への空襲は何だったのか～」

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事 高谷 和生

1 はじめに ～長崎と熊本をつなぐ～

- 原爆投下目標 16地点と候補地の一つとなった「熊本」
- 『落とされなかった原爆』と「熊本」をどの様に伝えるのか！ 地続きの空襲！
- 長崎への航路、熊本投下の原爆標記「伝単」、45年11月1日からの九州上陸「オリンピック作戦」

2 恐ろしかった柿原空襲、中国大陆内陸部からの柿原空襲、地域学習と平和の継承

1944年（昭和19年）11月21日、 中国大陆の延安・成都
基地から出撃した第58航空団戦略爆撃 機B29、60機は長
崎県大村市「第二一海軍航空廠」を目指しました。その内
の一機は、諸事情から「臨機目標」である熊本をねらいま
した。なぜ、熊本・柿原が初めて空襲されたのか？ 柿原
空襲で家族を亡くし、九死に一生を得られた「津下 環
（つげたまき）」様の体験から紐解きます。

また、令和7年度熊本市花園小学校での宮丸賢一先生と
子ども達の「柿原空襲の証言聞き取り」を通して、本会から
の2024年11月の出前平和講座、12月の花園小学校での学
習発表会での発表につながります。さらに本年には、紙芝
居『柿原空襲 ～語りつぐ～』製作から、「地域学習」と
「平和の継承」を考えます。

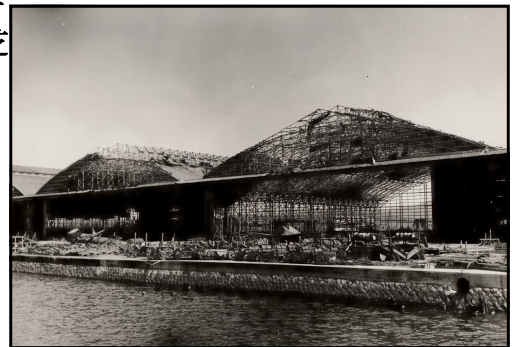


表-1 1944年11月21日の大村空襲の概要

目標	第1目標 大村 第2目標 上海 最終目標 南京
部隊	第58航空団の 第40・第444・第462・第468群団
B-29の機数	成都を離陸した機数 109機 目標に投弾した機数 94機 うち大村61機・上海13機・南京5機 臨機目標 15機
爆弾・焼夷弾 の搭載	爆弾(500㍑) M43・M64 936発 焼夷弾(500㍑) M76 480発
爆弾・焼夷弾 の投下	大村 爆弾 524発 焼夷弾 286発 計2025㍑ 上海 爆弾 127発 焼夷弾 36発 計4075㍑ 南京 爆弾 28発 焼夷弾 37発 計1625㍑ 臨機目標 爆弾 124発 焼夷弾 63発
攻撃時間 (日本時間)	大村 9時47分～10時36分 上海 8時29分～13時13分 南京 7時42分～10時50分 臨機目標 8時58分～11時04分
投下高度	17,200～27,500フィート

- 上：中国大陆の延安・西安基地での飛行場様子と戦略爆撃機B29
- 中：被害を受けた長崎県大村の第二一海軍航空廠「水上機格納庫」
- 下：高谷による津下さん聞き取りの様子。爆弾投下地点を指さす

3 3月・5月の米艦載機空襲、7月1日の第一回熊本大空襲、8月10日の第二回熊本大空襲

1945(昭和20)年3月18日、熊本県内各地で米海軍空母艦載機による空襲を受けました。これらの旧三菱重工業熊本航空機製作所の初空襲は、本工場の学校等への「一次疎開」を、さらに「第二次疎開」としての地下・半地下工場への移転へと進みました。

その後、4月以降での沖縄支援作戦の一貫としての5月10日、13日～15日「特攻機発信基地の陸海軍飛行場」へと米艦載機、B29による戦術爆撃とつながります。

4月28日には、陸軍航空軍統合目標本部あて極秘文書に示す様に、空襲被害を受けていない候補都市「3マイル(4.8km)候補地」として、原爆投下目標の16地点・候補地の一つとなった「熊本」の実態状況の解明が必要です。

その後候補地は「京都」を含め「広島・小倉・長崎・新潟」へと収められます。

「小倉」では、命運を分けた八幡空襲の煙霧等による被爆が避けられた、長崎への「しよく罪意識」が生まれます。「新潟」では、無傷の新潟と焦土と化した長岡の姿を対比して、「原爆疎開」の伝承へと繋がります。「横浜」では、原爆投下候補地として予約が解除され、大規模な「横浜大空襲の記録」から、原爆を記録することとなります。「京都」では、オーテス・ケーリと京都神話としての、「無空襲都市からの想像力」を考えさせられます。

国内の中小都市空襲の一環として、熊本への空襲準備を整えた第73飛行団は、7月1日深夜の「第一回熊本大空襲」としてマリアナ基地群を飛び立ち天草・宇土半島を経て、熊本市上空に達しました。154機のB29が、1107.2トンもの焼夷弾を2時間かけて投下。市街地の三分の一が焦土と化し、約1万戸が罹災し、市街地住民約4万人が家を失いました。

さらに、8月10日昼間の「第2回熊本大空襲」では、沖縄の極東航空軍による陸軍機による九州本土上陸(オリンピック作戦)に向けての、前哨戦が展開されました。

ここでは、米軍撮影空撮写真をAIや証言によるカラー化作業による「記憶の解凍」取り組みも紹介し、「熊本市東部域への空襲実態」を、現在の状況と照らし合わせます。



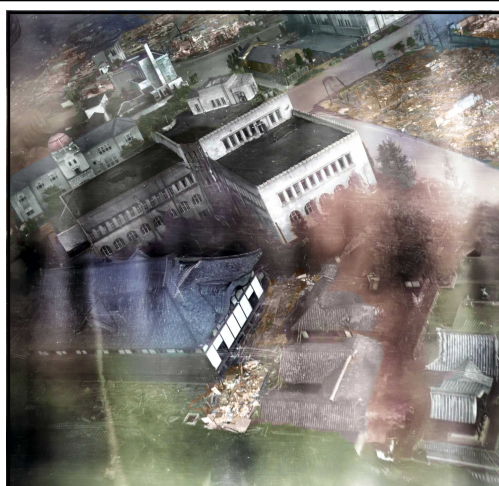
□上左：1944年5月14日の熊本製作所工機工場等への米艦載機による空襲。ガンカメラ映像

織田祐輔著『米軍カラーフィルム…』イカロス出版

□上右：5月13日健軍飛行場への攻撃

□下左：8月10日第一回熊本大空襲での空襲状況

□AIカラー化 熊本市公会堂周辺部 白川と本荘



4 健軍（熊本）飛行場と三菱重工業熊本航空機製作所への空襲

(1) 健軍（熊本）飛行場

旧熊本飛行場は熊本市東区健軍町・西原町・戸島町・小山町に所在する。健軍飛行場の別称を持ちます。当初は三菱重工業株式会社熊本航空機製造所で生産する重爆撃機「飛龍（キ-67）」試験飛行のための飛行場として設営されました。

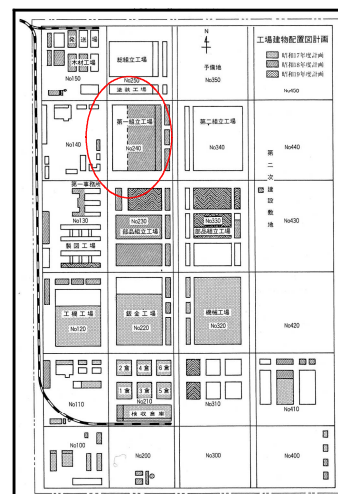
昭和19年4月「飛龍第一号機進空式」時には飛行場諸施設も南・西側に完成し、同6月大刀洗陸軍飛行学校熊本教育隊が、飛行場東側に管理区画を設け開校しました。その後大刀洗飛行学校の廃校に伴い、実戦部隊の配備も行われ、昭和20年4月、重爆隊の第六十戦隊の配置に伴い機能が更に拡充します。昭和20年5月の義号作戦では、沖縄に向け「義烈空挺隊」の発進が当飛行場から行われた。昭和20年7月、第三十戦闘飛行集団の配当飛行場となり、敗戦時は第六〇戦隊（陸軍重爆隊、その後は百十重爆撃隊と統合し、百七十戦隊に編制替）、第一七独立飛行隊、第五五飛行中隊、第一七四飛行場大隊の配備部隊名が記されています。

滑走路は、現日本赤十字熊本病院前道路として1500×60m（マカダム舗装）を基盤とし、さらに1500×300・1500×200mの2箇所を設定する。周辺誘導路としては、3000m長が20本設置され、周囲には500名収容の宿舍12棟と軍記録に記されています。

飛行場南部隣接の三菱熊本航空機製作所には、義烈空挺隊慰霊碑も陸自施設内に移転されています。第六十戦隊の墜落機慰霊碑が天津町外牧畑、西原村宮山の2箇所に建立されています。



□ 健軍飛行場で敗戦を迎えた陸軍四式重爆撃機「飛龍」
□ 熊本航空機製作所配置図



(2) 三菱重工業熊本航空機製作所

三菱重工業熊本航空機製作所は、1942年6月15日名古屋航空機製作所の最新配置図等を用い、熊本市近隣で最も敷地的にゆとりのある健軍に起工されたのが三菱重工業熊本航空機製作所です。三菱重工業所内では機体を生産する第九製作所と称され、兵器等製造事業特別助成法による官設民営の工場として建設、略号「カミク」（官設・民営・熊本工場）とも呼称されました。

1944年4月29日には、陸軍四式重爆撃機「飛龍」（キ-六七）一号機の進空式が行われた。熊本製作所で敗戦までに46機（一部資料は42機）の飛龍が誕生した。なお、本工場は1945年5月頃より防諜上「報国熊第一〇一工場」と呼称された。昭和20年4月以降は、熊本市内・県央・県北の学校・空き工場への一次疎開、さらに地下工場への二次疎開が行われた。

最盛期は、名古屋航空より180人の基幹工員指導者、昭和19年2月期従業員25,000人を目途とし、非徴用者12,525人、女子挺身隊2,012人、学徒隊4,421人の「計18,958人」と記されています。



□ 敗戦後の熊本航空機製作所南側全景。
長尺建物は工機工場、背景は飯田山

(3) 県内に広がる「一次疎開」「二次疎開工場」、本土決戦準備

軍需省による昭和20年2月23日工場緊急疎開要綱を受け、一方では健軍本工場への3月18日空襲により19人が死傷するにいたり、熊本航空機製作所でもいよいよ4月1日から学校工場・倉庫等への一次疎開を開始します。

この時期から始まった**熊航第一次疎開**は「相応の条件を考慮し健軍工場を中心に、熊本市内、大津、菊池、木葉、宇土、隈庄、御船の各地区を中核とし、それぞれの地区の工場、学校、倉庫の既存建物を利用し生産部門ごとにその拠点を移した」ものです。

空襲激化に伴い45年6月頃から始まった**二次疎開**として半地下・地下工場が「県央・県北地区に7～12箇所」が造営された。「龍田弓削工場」は、本地下工場は、熊本市龍田町弓削に所在する。『健軍三菱回顧史』の「**報国熊第1011工場第二次疎開工場計画概要 昭和20年6月26日作成**」では、「供合・小峯」の名称で作業内容「組立・整備」と記載されています。



□三菱「龍田弓削工場」の通路部様子

5 現在（いま）への照射

この戦争と熊本の空襲は、何をもたらしたのか？

何を今に伝えるのか？

(1) 被爆、空襲、戦争、戦禍を、国民に強いる「受忍論」の限界、誤びゅう

□「原爆犠牲者への国家補償」、「空襲被害者救済法」の成立を！ 国民の民意を、どの様に示すのか！

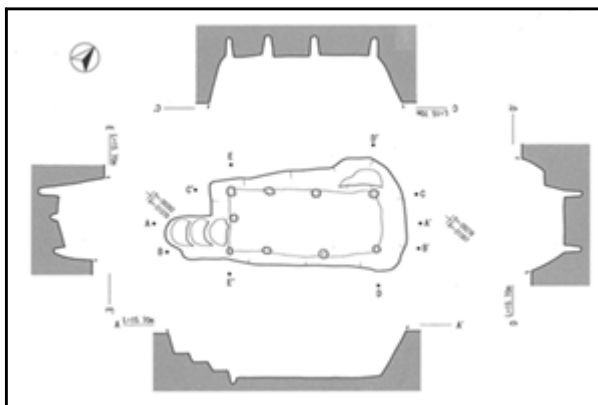
(2) 飛行場施設の地下化、軍需施設の学校への疎開・分散、地下工場の造営

□アジア太平洋戦争期での「敗戦間際の1945年熊本状況」は「**本土決戦体制**」と同一！

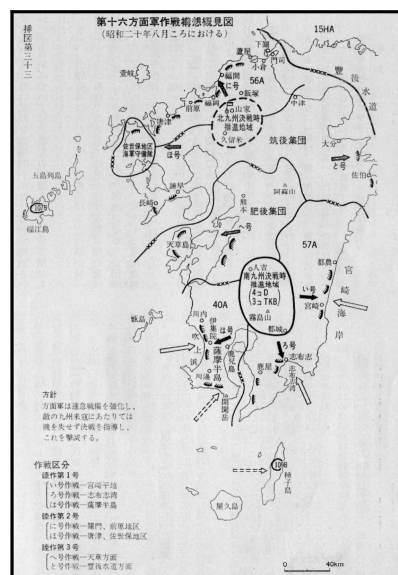
□九州・沖縄の防衛力強化「**南西シフト**」は、九州地域の新たな**本土決戦「決六号作戦」**では！

□指定地下施設「県庁本館・新館等 11カ所」の不充分さ、一次避難の現状

□実効性ある**国民保護策**、駐屯地周辺の病院・公共施設等への「**シェルター整備・確保**」優先！



□大江遺跡第13次調査での「民間防空壕」防空法、施行設置基準による遺存遺構
□「第十六方面軍作戦構想図」昭和20年8月頃『戦史叢書 本土決戦準備』より



(3) 西部方面総監部司令部の地下施設とは・・



□旧海軍佐世保鎮守府防空指揮所の大空間

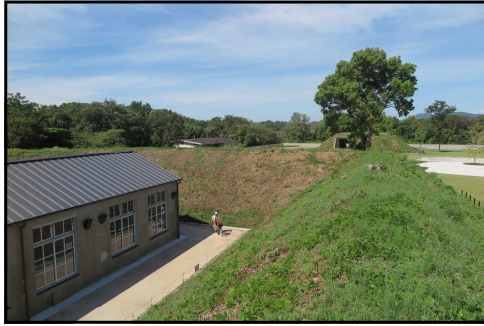


□旧出水海軍航空隊地下作戦司令室の強固性

- 「旧海軍佐世保鎮守防空指揮所の作戦司令室・通信室・電力配電等」から見る対防空防御
- 旧軍でも「作戦司令部機能維持の施設・通信と電力施設」は最優先

(4) 健軍弾薬庫（現存9棟と土塁）の武力攻撃に対する「抗たん性・強靱化」は・・

- 「豊橋海軍工廠弾薬庫・豊川海軍工廠平和公園」から見る被害軽減、周辺部への被害回避
- 旧海軍佐世保鎮守府陸上施設では、丘陵をくり抜く「隧道弾薬庫」や「地下燃料庫」が主体
- 旧陸軍山田弾薬庫（一部は北九州市南区山田緑地公園）、東京第二陸軍荒尾製造所火薬庫



□愛知県「旧豊川海軍工廠・平和公園」 □陸軍消火栓 □荒尾二造 RC造崖面型大型火薬庫

(5) 「義烈空挺隊慰霊祭」「健軍駐屯地広報館」の健軍地域とのかい離

- 「健軍地域の慰霊祭」から「旧軍顕彰慰霊祭」へ、資料館展示から姿を消す「熊本航空機製作所」



□旧展示状況 □市民見学会での展示室様子 □組立工場内の旧解説板

6 「三菱重工業熊本航空機製作所第一組立工場」を保存する意味は!!

- ①項 旧三菱重工業熊本航空機製作所及び同第一組立工場等の**歴史的価値**
- ②項 健軍地域のまちづくり、熊本の航空機産業の**歴史**を検証し、記憶を残す**象徴的価値**
- ③項 現在（いま）を照射し、武力だけに頼らない「国防の意味」を考え、**平和を継承する「戦争遺跡・遺産」**
- 2026年6月14日「旧三菱重工熊本航空機製作所第一組立工場等の市民見学会」での学び
- ウクライナ戦争等から見るAIや電子戦が優先する「新しい戦争」の姿、国家間戦争の再来
- 「戦争がやってくる時代」
世界の大きな秩序の「ゆらぎ」の時代



□6月14日市民見学会での旧工員「竹本正則さん（101歳）」の体験・証言

[資料 1]

戦後80年
たまな・くまもとの
戦争遺産
～次世代への継承～

令和7年度企画展

令和7年7月12日～9月21日

主催 玉名市、玉名市教育委員会
企画 玉名市立歴史博物館「ころこピア」
会場 玉名市立歴史博物館「ころこピア」
企業展示室ほか

【記念講演会】
日時 令和7年7月18日(日)13:30～16:00(13:00開場)
会場 玉名市立歴史博物館「ころこピア」
定員 250名(申込不要)
講演 「オセアニアの太平洋戦争と日本の戦争遺産」
講演者 佐々木 洋一(広島大学大学院学芸学専攻 教授)
講演2 「戦争遺産が見たくまもと」
講演者 熊本 大江(熊本大学 文学部 文学専攻 准教授)

玉名市立歴史博物館ころこピア
TAMANA CITY MUSEUM OF HISTORY KOROKOPIA

紙の爆弾「伝単」
～昭和十三年日本初空襲と昭和二十年のボツダム宣言～

日中戦争の最中、昭和十三年(1938)年五月三十日
三機の中米民間軍機は、日本側の防空体制の隙をつき、
西北部・埴原郡八戸町などで、「日本本土初空襲」と
なる紙の爆弾「伝単」を投下した!!

昨朝熊本縣下へ
怪飛行機飛来す

さらに、終戦直前の昭和二十(1945)年七月から八月、
熊本・玉名・菊池・松橋・天草の各地に
「ボツダム宣言」「無条件降伏」等を知らせる
「伝単」50万枚以上が撒かれた!!
そして日本国民は、これらの「伝単」を信じた!!

くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク

上小田の三宮神社付近から見た長崎の原子爆弾
(昭和20年8月9日)
の原子雲

長崎被爆体験証言会と紙芝居
浦田藤枝さん証言
「私の長崎被爆体験～生き抜いた80年」

令和7(2025)年
8.23(土) 開演 12:30
開会 13:00

玉名市立歴史博物館ころこピア レクチャーホール
熊本県玉名市八戸町1-17

※抽選券 申込不要

内容
(1) 開会・日曜特別開演
(2) 講演「70～80年経たぬ長崎の被爆体験証言会と紙芝居」
(3) 紙芝居上演「長崎市原爆被害の証言」
(4) 証言会「私の長崎被爆体験～生き抜いた80年」
(5) 紙芝居「長崎市原爆被害の証言」
(6) 紙芝居上演「長崎市原爆被害の証言」
(7) ワークショップ「長崎市原爆被害の証言」
(8) 閉会

くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク 共催
玉名市立歴史博物館ころこピア
「くまもとの戦争遺産を未来につなげる」事業

戦後80年(第7回)
くまもと戦争遺産の旅
～玉名飛行場と埴原 遠征飛行場と
松橋空襲 軍人伝説の旅～

戦後80年、戦時中、くまもとの戦争遺産を巡る旅。玉名飛行場と埴原 遠征飛行場と松橋空襲 軍人伝説の旅。戦時中、くまもとの戦争遺産を巡る旅。玉名飛行場と埴原 遠征飛行場と松橋空襲 軍人伝説の旅。

旅のよろこび株式会社 TEL096-345-0811

くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク
平和憲法を学ぶ玉名市市民の会
http://www.kumamoto-senseki.net/

熊本日日新聞社

- 令和7年度企画展『戦後80年
たまな・くまもとの戦争遺産
～次世代への継承』
- 完成した平和継承リーフレット
『紙の爆弾 伝単』
- 本会2025年夏企画「長崎被爆
体験証言会と紙芝居」
- くまもと戦争遺産 ネット 戦時資料 貸
出キット
「子どもたちが見た戦争」第二弾
チラシ表面

子どもたちの見た戦争
くまもと戦争遺産 ネット 戦時資料 貸出キット
第2弾セット

戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争」は、2016年熊本県内各地の戦時資料レクチャー活動や奉仕活動に協力いただいた方々からの提供、九州ろうきん助成事業により収集した戦時資料です。
テーマに沿って選んだ戦時資料を貸し出します。
県内各地での平和学習、地域団体等での平和活動、資料館での展示・学習などに利用できます。
第1弾5キットに続き、第2弾4キットを作成しました。写真・パネルも付属します。

くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク
https://kumamoto-senseki.net/



- 玉名市歴史博物館ころこピアでの「長崎被爆体験証言会と紙芝居」開催の様子 2025.8.23
- 熊本学園大学付属中学校「出前平和講座 熊本大江の戦争を知ろう フィールドワーク」歩兵十三聯隊正門 2025.9.19



保存、活用「官民で議論を」

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷和生代表(70)

熊本県内の戦争遺跡の記録や検証、関連資料の掘り起こしなどに取り組む「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」（玉名市）は、これまで県内に約200カ所の戦争遺跡・遺構を確認している。

同ネットワークの高谷和生代表(70)は、県内で戦時中に建設された軍施設の特徴を「多くの飛行場が建設されたこと」と指摘する。陸軍7カ所、海軍2カ所、特攻用秘匿飛行場5カ所の計14カ所は、九州で福岡、鹿児島、宮崎に次いで4番目に多い。

菊池市の菊池飛行場跡地に代表されるよう

に、飛行場には土地の収用と部隊の展開、米軍による空襲被害、戦後復興の歴史がひも付く。高谷さんは「飛行場は戦争の実相を示す昭和史を凝縮した遺跡。できる限り詳細な調査が必要」と強調する。

同ネットワークは大規模な施設跡を「遺跡」、その中に残る門などを「遺構」と定義する。太平洋戦争末期には、本土決戦に向けた軍事施設が県内に急造された。有明海に侵入してくる敵の迎撃のために、日本軍は天草地区に特攻用モーターボート基地や3間の砲台を設置。人吉海軍航空基地（錦町）は地下

施設が増設され、兵たん基地として利用された。一部は遺跡、遺構として今も残る。

県内にはほかにも、陸上自衛隊北熊本駐屯地（熊本市北区）にある熊本陸軍幼年学校時代の大理石製方位盤、白川中（中央区）の正門として移設された野砲兵第6連隊の営門などがある。

戦争遺跡や遺構は、自然災害や劣化で消失したり、所有者の意向などで取り壊されたりするケースがある。隈田飛行場（熊本市南区城南町）の油倉庫は2016年の熊本地震で全壊した。福岡県や沖縄県など行政が主体となって調査し、保存に取り組み自治体もある。高谷さんは「戦争遺跡や遺構は公共の遺産として、将来に残さなければならない。どのように保存・活用していくのか、熊本県内でも行政や市民が一緒に議論を深めるべきだ」と提案する。

（後藤幸樹）



「建物や場所そのものに価値」

保存の意義 高谷代表に聞く

——三菱重工は本航空機製作所は、どんな施設だったのですか。

「太平洋戦争開戦直後の1941年12月に陸軍の要請で三菱重工が熊本への建設を決め、41年1月から終戦まで重爆撃機「飛龍」を約機生産した。国内工業の急激な需要化に伴い、軍部であった熊本を歴史を物語っている。第一組立工場は唯一現存する工場施設で、全国でも残存例はほとんどない」

駐紮地内に残る「三菱重工
熊本東区陸上自衛隊健
業熊本航空機製作所第一組立
工場」は、戦時中の建築から
80年以上が過ぎても現存する貴重な戦争遺構の一つだ。陸自
の解体方針に対して現地保存
を求める「くまもと戦争遺跡
・文化遺産ネットワーク」の
高谷和生代表（右）「玉名市」
に、その歴史的価値や保存・
活用を考えを聞いた。

「建物や場所そのものに価値」

保存の意義 高谷代表に聞く

「航空工業の発展点で、船体が航空産業の拠点となった事実や、工場や健康飛行場とともに発展した熊本市の近現代史を知る学術的価値も非常に高い」

——どのような形で保存が望まれますか。

「現在は駐用地の倉庫などとして使われているが、陸自は老朽化のため解体し、新たな隊舎を建てる」として、現状のまま維持などをとて維持してほしい。建物や場所そのものに価値があり、現地で学ぶなど活用される。どうしても全体の保存が難しい場合は、一部だけでも残すだけでも考えてほしい。工場跡面なども公開されているので、まずは建築調査が必要だ」

——団体としてどう関わっていますか。

「2012年に荒尾市の旧東京第二陸軍造作廠常陸型製造所（荒尾二造）の愛護会所が解体されてしまったが、

たかたに・かずお 1954年、玉名市生まれ。別府大文学部史学科考古学専攻課程卒。熊本県職員として県文化課で埋蔵文化遺産の発掘調査を担当。2005年に教員OBらと現団体の前身の団体を発足し、16年8月から代表。

くまもと戦跡ネット

陸上自衛隊が解体する方針を示している熊本市東区の健康駐屯地内の戦争遺構「三笠重工業熊本航空機製作所第一組立工場」について、市民団体「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」（髙谷和生代表など）は１日、現地保存を求める要望書を陸自西部方面隊と熊本県教育委員会、熊本市に郵送した。

要望書は戦争遺跡保存全（長野市）と連名。組立工場国ネットワーク（事務局）を「熊本の近現代史や戦時

健軍駐屯地三菱工場「保存を」

中の航空機産業と街の発展を伝え、全国的にもほとんど残存例がない学術的価値の高い建物」と説明。陸自に「戦争の実相を知り、平和の大切さを学ぶ場として現状保存してほしい」と求め、県教委と熊本市の文化財保護部局にはその支援や調査を要望した。

高台代表は「貴重な戦争遺構は一度失われたら取り

戻せない。行政や私たちが民間団体も一緒になって保護の道を探る話し合いを（したい）と話している。

三菱重工業熊本航機工機製作所は太平洋戦争終戦の9月4日から1月19日までで爆撃機（飛龍）を生産、第一組立工場（約200坪）で唯一現存する工場施設で陸自が装備品の整備や車庫や倉庫などに使用し、戦後遺構として公開された。陸自によりその解体時期は未定で、跡地には隊舎を整備する予定。

（畑江利推）



陸上自衛隊健康軍駐屯地内にある三菱重工業熊本航空機製作所第一組立工場の建屋
＝2020年8月、熊本市東区（中島忠道）

「伝単」散布の証言掲載

くまもと戦跡ネット リーフレット刊行



「伝單」を紹介するリーフレットを作成したく末もと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表の高谷和生代表

[illegible]

- くまもと昭和100年 戦争遺跡
編 記事コメント 2025.8.14
- 健軍駐屯地 三菱工場「保存を」
2025.12.2
- 本会16冊目となる、平和継承リー
フレット「紙の爆弾 伝単」

